

連載タイトル：We are the Future

## Hacker (剣客) の楽園

### その 1：ギークの楽園はここだ MakerFaire 深圳（シンセン）その 1

#### ■リード

ギークの天国は、2 次元でもシリコンバレーでもなくて、深圳にありました。まず、ドラえもんの道具のようなガジェットを幾つか紹介します。

こんにちは、チームラボの高須です。チームラボ Make 部という部活の発起人です。すごく Make が好きです。東京の MakerFaire には第 2 回（2008 年）から参加。出展は 2009 年の第 4 回からしています。2012 年には世界最大の Maker Faire であるアメリカベイエリアに、2013 年には Maker Faire 台北にもいきました。

Make が好きすぎて、Maker の友達がいっぱい出来ました。ギークは面倒くさい人が多いのですが、一回わかりあうとすごく仲良しになれて、僕は大好きです。この連載では自分はもちろん、多くの友達たちに声をかけて書いてもらうようなこともやっていこうと思います。

この 4 月に、中国深圳の MakerFair に行ってきました。もちろん自腹。僕はここで人生が変わるほどの衝撃、はじめて MakerFaire を見たのと同じくらいの衝撃を受けたので、それを報告します。今、現在も本気で「なんとかして深圳に住みたいなあ」と考えています。

MakerFaire は世界中で行われる DIY のお祭りです。去年は大小 100 回以上の MakerFaire が各国で開かれました。小さな規模のものを MiniMakerFaire、大きなものは「Mini」が取れて MakerFaire は、ベイエリア、ニューヨーク、ローマ、デトロイト、イギリス、シドニー、東京と、そして新しく台北が加わります。深圳は今年から Mini が取れて MakerFaire になりました。

01\_takasu\_010\_1.JPG



※このロボは音楽に合わせて動きます。中華ガンダムみたいなのが話題になるけど、中国はもはやハイテクの国です。泊まった 3000 円ぐらいの安宿にも、このロボのミニチュアが置いてありました。街全体がテクノロジー好きなことがわかります。

01\_takasu\_010\_2. JPG



出展は 200 組程度と東京の半分程度ですが、街全体で MakerFaire を盛り上げています。ここは Maker の街なのです！

### ■クールな出展物

出展物は、世界どの国の MakerFaire にも劣らないクールなものでした。中国人の出品は 60-70% ぐらい？欧米人の出展が目立ちます。

01\_takasu\_010\_3. JPG



※深圳で行われてる HackerCamp のブース。Hacker スペースもいろいろとところにあります。なお、中国語では Maker、Geek、Hacker の区別がなく、

全部 剣客「Hacker」です。スピーカーだったクリス・アンダーソンも小林茂先生もインテルのえらい人も僕も剣客 Hacker です。それだけで嬉しくなります。

01\_takasu\_010\_4. JPG



※これはスマートライターの Quitbit。タバコを吸うと、液晶画面に「ほら、寿命が3分縮んだ！」的なメッセージが出ます。

BLE でスマホアプリと連携していて、スマホアプリの方には「吸わなければどのくらいお金が節約できたか」をはじめとした、ログが出ます。Nike Fuel と同じような Internet Of Things です。



01\_takasu\_010\_5. JPG



※※これはおそらく CNC ミリングマシンで作られた Quitbit のプロトタイプ。

01\_takasu\_010\_6. JPG



これはテニスラケットにくっつけると、フォームなどを自動解析してくれる、スマホアプリで解析してくれるデバイス Shotstar。こちらはまだ 3D プリンタで外装作ってとりあえずラケットにつけてみました、みたいな段階。

他にも、スケートボードに取り付けると、ゲームみたいにスケボーのトリックを記録してくれるデバイスなんかもありました。

01\_takasu\_010\_7.JPG



これは偏光レンズ+ヘッドトラッカーを使った 3D システム、Depth3D。頭的位置を追跡するヘッドトラッカーがついていて、頭を動かすと画面の中の映像が変わる。映画館の 3D のように「飛び出して見えるけど、頭を動かしても横顔は見えない」ものではなくて、こちらは実際に横顔がみえる。いわゆる「スカートの中が覗ける型の 3D」です。実際に体感したのですが、

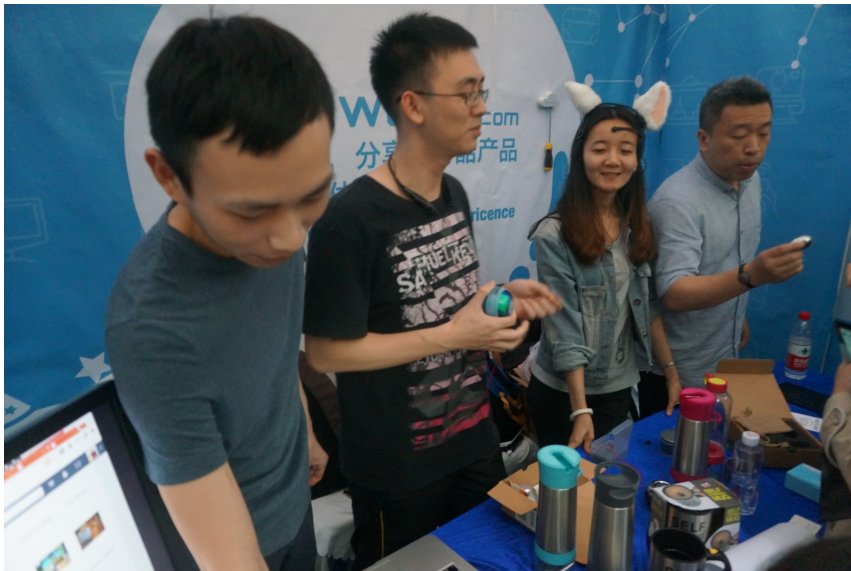
モニタじゃなくて、その向こうに窓が広がってるようなクオリティでした。

開発者（グレーのシャツを来てカメラ持ってる）、Tシャツにチームラボシール貼ってるだけあって、最初はすごく面倒くさそうに説明してたのですが、こちらがMakerだとわかると「これ、子供は1日じゅうやってるんだよ。現実に戻ってこれないぐらいにな！！」と急にテンションが上がるヤバい人でした。DMM.Makeにも記事を書いている、日本のOculus Riftコミュニティのことを紹介したらすごく興奮して、メールのやり取りを始めたので、そちらはまた報告できればと思います。

どこの国のMaker Faireも、このようにクールな工作物が出展されています。

自分が欲しいものを自分で形にする。ドラえもののひみつ道具が現実化したかのようなものが、MakerFaireには置いてあります。そしてこちらがテクノロジーが好きなことが相手に伝われば、彼らは嬉しそうに細部まで説明してくれます。

01\_takasu\_010\_8.JPG



※これは、世界中からオモシロイガジェットを手に入れてレビューする、日本で言うとスタパ齋藤さんやGigazineみたいなニュースメディア。

Necomimi は僕と彼女の 2 人だけで、Google glass は少なくとも 3 人は見たので、Necomimi のほうがマイナーでした。

深圳の MakerFaire でショックを受けたのは、もちろん、なによりも DIY のお祭りで、Maker たちが自分が作りたいと思って作ったものを展示していて、いつも暗い目をしているギークたちがこの日だけはキラキラした目で説明してくれるところは変わらないのだけど、彼らは本気で「自分が作ったものを、だれでも手に入られるようにしたい」と考えていて、見かけた「これ、オモシロイ！」というもののほど、「来月 kickstarter 出すんだよねー」と帰ってくるところでした。彼らにとっては「趣味」と「仕事」はつながっていて、自分が好きなものの事をずっと考えていられるのです。

深圳の MakerFaire には、「自分はこうやって、作りたいものを作って、毎日楽しく生きていくんだ」という人たちの活気がみなぎっていました。次回は、その熱気をお伝えできればと思います。